



地獄の釜のふたが開き
登別を熱く染めた2日間
第63回登別地獄まつり

8/29・30

8月29日・30日、登別地獄まつりが登別温泉町の極楽通りや泉源公園をメイン会場に開かれ、2日間で3万4千人が熱狂しました。

オープニングセレモニーでは、登別市観光大使となったキャラクター『登別綾瀬』と声優の日岡なつみさんの就任をお披露目しスタートに花を添えると、日岡さんをひと目見たいと道内外からのファンが声援を送っていました。

ステージイベントでは令和9年3月で閉校となる登別中学校の生徒たちが、吹奏楽演奏や郷土芸能『熊舞』を披露し、登別中学校として最後の地獄まつりを大いににぎわせました。

夜には高さ6メートルの閻魔大王からくり山車が形相を変えながら極楽通りを練り歩くと、初日は約100人の男たちによる鬼みこし暴れ練りこみ、2日目は市民と観光客が入り交じって踊る鬼踊り大群舞が極楽通りを熱く染め上げました。ファイナレは打ち上げ花火が締めくくりに、地獄谷に詰めかけた観客から沢山の歓声が上がりました。



▲外国人住民への対応状況や課題、対応事例を共有する職員

食べて、遊んで、楽しんで！
第38回幌別地区手づくり祭り

9/5・6

9月5・6日、市役所前の道道で幌別地区手づくり祭り（同祭り実行委員会主催）が開催されました。

暴力団露店を排除し、資金源を絶つことを目的に毎年開催するこの祭りは今年で38回目。会場には50を超える露店が並び、焼きそばや焼き鳥などの定番グルメを楽しむ人や射的や型抜き、くじ引きに一喜一憂する子どもたちなどでにぎわっていました。

そのほか姉妹都市の宮城県白石市、神奈川県海老名市の物産展も開催され、年に一度の機会を逃すまいと大勢の来場者が各市自慢の特産品を買い求めていました。



▲思い思いに祭りを楽しむ来場者たち

外国人住民にも優しいまちを目指して
登別市多文化共生推進庁内会議

8/25

市は庁内の関係課長職で組織する『多文化共生推進庁内会議』を設置し、8月25日に市役所で初回の会議を開催しました。

これは、本市の外国人住民の増加、多様化を受け、窓口対応や防災、子育て、福祉教育など各分野での外国人住民への対応の課題や現状を把握し、その対応策を検討し、外国人にも優しく、誰もが安全に安心して暮らせるまちを目指すものです。

初回は、各部署における外国人住民への対応状況や課題、対応事例を共有しました。今後、複数回の会議を通じ、言葉の壁などさまざまな課題の解消に取り組みます。